

理研食品株式会社のわかめ養殖に関する研究が評価 第21回「民間部門農林水産研究開発功績者表彰」を受賞

理研ビタミン株式会社（本社：東京都新宿区、社長：山木一彦）のグループ会社である理研食品株式会社（本社：宮城県多賀城市、社長：渡辺博信）は、令和2年度（第21回）「民間部門農林水産研究開発功績者表彰」において、「農林水産技術会議会長賞」を受賞しました。

【概要】

- 農林水産省と公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会では、民間が主体となっていて行っている農林水産業その他関連産業に関する研究開発で優れた功績をあげたものについて、「民間部門農林水産研究開発功績者表彰」として表彰しています。
- 今回、理研食品株式会社の研究施設「ゆりあげファクトリー」における研究成果が評価されました。

【研究成果】

- わかめを同一環境で養殖できる陸上水槽装置を開発し、国内主要産地のわかめの中から、生長時期が早い系統（早生）と遅い系統（晩生）を開発
- この2系統を順番に養殖し、二期作が可能であることを実証
- 科学的解析手法を海藻類で初めて活用し、環境要因の交互作用も加味したわかめの生育最適条件を解明

※本研究成果の一部は、理化学研究所仁科加速器科学研究センター阿部知子副センター長、株式会社SiM24兼松宏一開発部長との共同研究によって実施されました。



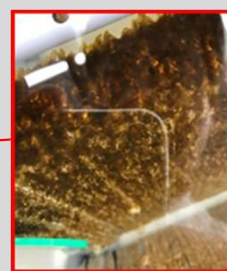
わかめの優良系統選別のための陸上養殖用水槽装置



選別したわかめ
左：早生（わせ）系
右：晩生（おくて）系



わかめ種苗育成装置



高密度に発芽した幼芽の
安定生産が可能に

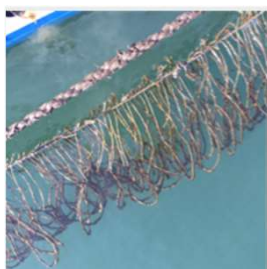


わかめの幼芽

【研究の背景と今後の展望】

- 近年、健康・国内産食品志向の高まりから国産わかめの消費が拡大している一方で、国産わかめの養殖生産量は減少傾向にあり、需要を満たせていません。
- わかめの養殖生産量減少の背景には、漁業者の減少および高齢化に加え、優良系統が実用化されていないこと、海中で管理されている養殖用種苗（幼芽）が台風等によって被害を受け、養殖に必要な数を確保できていないことなどの課題がありました。
- この研究成果によりわかめの種苗の安定供給が可能となったため、今後は新たな養殖拠点の拡大、養殖生産量の底上げが期待されます。また、将来的には漁場拡大による雇用創出及び漁村振興にも貢献できればと考えております。

＜わかめの養殖風景＞



わかめの種糸



わかめが育つ三陸の海（※海面に浮くブイの間にわかめを括り付けた縄を張って養殖します）



収穫風景

【関連リンク】

- 令和2年度（第21回）「民間部門農林水産研究開発功績者表彰」受賞者の決定について
<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/201112.html>
- 受賞者一覧
<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/attach/pdf/201112-3.pdf>
（※農林水産省 農林水産技術会議ホームページより）

理研ビタミングループでは、今後も天然物の有効利用を図り、新たな価値を創造する技術と商品で、社会に貢献してまいります。

●理研食品 ゆりあげファクトリー

2017年、宮城県名取市の閑上地区に開設。
わかめ種苗の優良系統を選抜するために開発した養殖水槽を設置し、それを用いて選抜した高成長種苗、早生（わせ）・晩生（おくて）などの特性を有する種苗の生産を行っています。



お問い合わせ先
理研ビタミン株式会社 広報・IR室 井上・清水
TEL:03-5362-1315